



最初にお読みください

# CentreCOM® GS908M/916M/924Mリリースノート

この度は、CentreCOM GS908M/916M/924M をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 1.6.0

## 2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 1.4.6 から 1.6.0 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.6.0 (J613-M0220-03 Rev.F)」をご覧ください。

### 2.1 EPSR アウェアの機能拡張

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「EPSR アウェア」**

- EPSR のアウェア機能に「プリフォワーディング状態での障害回復ポートのブロッキング」および「トラップ送信機能」を加えた動作モードが追加されました。CREATE EPSR コマンドの MODE パラメーターで TRANSIT を指定します。
- リングトポロジチェンジが発生したときに、FDB から IGMP Snooping/MLD Snooping によるマルチキャストグループのエントリを削除する設定ができるようになりました。CREATE EPSR コマンドで DELETEMCAST オプションを指定します。ただし、MLD Snooping の IPv6 マルチキャストアドレスが FDB にスタティック登録されている場合は、このオプションを指定しても該当のエントリは削除されません。

### 2.2 MLD Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」**

VLAN 環境において不要な IPv6 マルチキャストトラフィックをフィルタリングする MLD Snooping に対応しました。MLD v1、MLD v2 への対応が可能です。詳細は、コマンドリファレンス「MLD Snooping」をご覧ください。

### 2.3 IGMP Snooping のマルチキャストトラフィック制御

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

IGMP Snooping 有効時、VLAN 内にグループメンバーが存在しないとマルチキャストパケットはフラッディングされますが、これを避けるために、VLAN 単位で宛先となるマルチキャストグループアドレスを登録できるようになりました。本設定により、VLAN 内にグループメンバーが存在しない場合、登録されたグループ宛でのマルチキャストパケットはルーターポートにのみ転送されます。設定は、ADD IGMP Snooping コマンドで行います。

---

## 2.4 検疫ソリューション対応

マイクロソフト社「Windows Server 2008」標準の NAP（ネットワークアクセス保護）、シマンテック社の NAC（Network Access Control）に対応しました。

---

## 3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.4.6 から 1.6.0 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 本製品の MIB を正しくコンパイルできない case がありましたが、これを修正しました。
- 3.2 SET CONSOLE コマンドの PAGE パラメーターに OFF（または 0）を指定していると、Ctrl/C（Ctrl キーを押しながら C キーを押す動作）で画面出力を中止できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.3 Telnet ログイン時、画面にイベントメッセージが表示されている最中に、Telnet 切断や新たな Telnet 接続が行われると、本製品がリブートする case がありましたが、これを修正しました。
- 3.4 SET SWITCH PORT コマンドの PORT パラメーターに ALL、SPEED パラメーターに AUTONEGOTIATE 以外を指定して実行すると、コンボポートに対して 1000MFULL が設定されていましたが、これを修正しました。
- 3.5 COPPER（1000BASE-T ポートのみ使用可能）に設定されたコンボポートでポートトランキングを構成すると、通信できない case がありましたが、これを修正しました。
- 3.6 ループガード（LDF 検出 / 受信レート検出）において、BLOCKTIMEOUT パラメーター（自動的に実行前の状態に戻るまでの時間）に NONE が指定されていると、アクションでディセーブルになったポートに対してケーブルの抜き差しをしても、実行前の状態に戻りませんでしたが、これを修正しました。
- 3.7 ポートのイネーブル・ディセーブル設定や通信モードの設定変更を繰り返し行っていると、該当ポートがリンクダウン・リンクアップを繰り返したり、コンボポートの場合は通信不可になったりすることがありましたが、これを修正しました。  
本修正にともない、ポートディセーブル設定時に送信カウンターがカウントされないように仕様変更しました。
- 3.8 リンクアップしているコンボポートに対して、フローコントロールを有効に設定すると、該当ポートがリンクダウンしていましたが、これを修正しました。
- 3.9 SET SWITCH PORT コマンドの PORT パラメーターに ALL、SPEED パラメーターに AUTONEGOTIATE を指定して実行すると、コンボポートがリンクアップしない case がありましたが、これを修正しました。
- 3.10 ループガードの LDF 検出において、SET SWITCH LOOPDETECTION コマンドの SECURE パラメーターに ON を指定した場合、LDF の送信から受信までに 1 秒以上かかると、受信すべき LDF を破棄していましたが、これを修正しました。

- 3.11 RSTP において、ルートブリッジの変更によるトポロジーチェンジ発生時、通信が復旧するまでに必要以上の時間がかかっていましたが、これを修正しました。
- 3.12 スパニングツリー有効時、FDB に 8192 件 MAC アドレスが登録された状態で、ポートセキュリティ（Secure モード）の設定を行うと、トポロジーチェンジが発生していましたが、これを修正しました。
- 3.13 Web GUI において、ポート認証のポート設定画面でモードを Single、かつ、ダイナミック VLAN を Disabled に設定し、いったん別画面を表示後、再度ポート設定画面に戻ると、ゲスト VLAN の VLAN 名が入力不可の状態（グレイアウト）になっていましたが、これを修正しました。

## 4 本バージョンでの制限事項

---

ファームウェアバージョン 1.6.0 には、以下の制限事項があります。

### 4.1 フラッシュメモリーの空き容量

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ファイルシステム」

フラッシュメモリーに 128KByte 以上の設定ファイルが存在する状態で、起動時設定ファイルの指定を切り替え続けていると、本製品がハングアップする場合があります。

### 4.2 SNMP

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- SNMP マネージャーのタイムアウトによって、同時に5 個以上のSNMP マネージャーから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。
- ファームウェアバージョン 1.4.5 で、ループガード（受信レート検出 / LDF 検出）がサポートされ、CREATE SNMP COMMUNITY コマンドおよび ENABLE SNMP TRAP コマンドの TRAP パラメーターに STORMDETECTION と LOOPDETECTION の指定ができるようになりました。これにより、バージョン 1.4.0 以前で TRAP パラメーターに ALL を指定している場合、1.4.5 以降へのバージョンアップ時に設定が以下のように反映されますので、ご注意ください。

バージョン 1.3.2 以前で ALL を指定して作成された設定ファイル：

CREATE SNMP COMMUNITY コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION が含まれます。

ENABLE SNMP TRAP コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

バージョン 1.4.0 で ALL を指定して作成された設定ファイル：

CREATE SNMP COMMUNITY コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

ENABLE SNMP TRAP コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

---

### 4.3 Telnet

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」**

Telnet 接続時、RESTART コマンドを実行し、本製品を再起動するかどうかのメッセージ (Do restart system now ? (Y/N):) が表示されたところで、Telnet セッションを切断すると、以後本製品に対して Telnet 接続ができなくなります。

Telnet ログイン中に本製品を再起動する必要がある場合は、Web GUI から実行してください。

---

### 4.4 RADIUS サーバー

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」**

802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドのDEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。

---

### 4.5 ループガード (受信レート検出)

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

受信レート検出機能を使用する際、エラーパケットを受信した場合も受信レートカウンターに計上されます。

---

### 4.6 スイッチング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

- スイッチポートの通信速度を AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO に設定すると link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- 通信モードが 1000M Full Duplex 固定に設定された光ポート (SFP ポート) に対して、物理的にリンクダウンさせる設定を行わないでください。  
DISABLE SWITCH PORT コマンドによる LINK=DISABLE の設定、および SET SWITCH LOOPDETECTION/STORMDETECTION コマンドによる ACTION=LINKDOWN の設定が本制限に該当します。

---

### 4.7 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。
- IGMP Snooping と、EPSR アウェアまたはスパニングツリープロトコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。  
なお、EPSR アウェアについては、ファームウェアバージョン 1.6.0 で CREATE EPSR コマンドに DELETEMCAST オプションが追加され、リングトポロジーチェンジ発生時にマルチキャストグループのエントリを FDB から削除する設定が可能になりました。

---

## 4.8 MLD Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」**

ルーターポートと通常のメンバーポートを同一ポートに設定することはできません。CREATE MLDSNOOPING VLAN コマンドでルーターポート、ADD MLDSNOOPING VLAN コマンドでメンバーポートの登録ができますが、同一ポートに設定してもエラーになりませんので、ご注意ください。

---

## 4.9 スパニングツリー

 **「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」**

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートのFDBが消去されます。

---

## 4.10 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」**

- 存在しないRADIUSサーバーを登録し、GUIからのログイン時にデフォルト以外のユーザー名とパスワードを入力すると、RADIUS認証のタイムアウトが発生するまでの時間が設定時間よりも長くなる場合があります。  
本現象は、CLIでは発生しません。
- IGMP Snoopingによるマルチキャストグループの登録は192エントリーまで可能ですが、Web GUIの「スイッチ設定」-「IGMP Snooping」画面では、64エントリーまでしか表示されません。  
65エントリー以上表示させる場合は、CLI上でSHOW IGMP Snoopingを実行してください。
- 通信負荷が高い状態で、Web GUIからファームウェアをダウンロードすると、ファームウェアのアップデート完了後、アップデートの進捗画面が自動的に閉じられないことがあります。

---

## 5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

取扱説明書、および「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.6.0 (J613-M0220-03 Rev.F)」の補足事項です。

---

### 5.1 FAULT LED の点滅条件

 **「取扱説明書」 24 ページ**

ファームウェアバージョン 1.3.2 から 1.4.0 へのバージョンアップにおいて、FAULT LED の点滅条件が、以下のように変更になりました。

- **1 回点滅：**  
(約 1 秒の点灯と約 1 秒の消灯を繰り返す場合)  
本製品起動中、またはフラッシュメモリーに書き込み中  
(点滅と点滅の間の消灯時間が約 2 秒間の場合)  
ファンの異常発生時
- **3 回点滅：**  
電圧の異常発生時

- 6 回点減：  
内部温度の異常発生時

---

## 5.2 サポートする MIB について

 **「取扱説明書」 108 ページ**

ファームウェアバージョン 1.0.0 から 1.1.0 へのバージョンアップにおいて、ブリッジ MIB に対応しました。これにともない、「本製品の仕様」の「サポート MIB」に、ブリッジ MIB (RFC1493) を追加します。

---

## 5.3 SNTP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNTP」**

登録された SNTP サーバーがネットワーク上に存在しない状態で RESET NTP コマンドを連続して実行すると、ARP Request が正常に送信されない可能性があります。このような状態で RESET NTP コマンドを連続して実行する場合は、1 分以上の間隔をあけるようにしてください。

---

## 5.4 IP

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」**

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

---

## 5.5 スイッチング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される FCSErrors カウンターと、ExcessiveCollisions カウンターが正しくカウントされません。
- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される送信トラフィックカウンターの「Discards」は、指定ポートで受信したパケットを他ポートから送信する際に、バッファのオーバーフローなどで破棄されたパケットの数です。指定ポートから送信される際のカウンターではありませんので、ご注意ください。
- リンクアップしているポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターに現在の通信モードと同じモードを指定してコマンドを実行すると、対向機器のポートの通信モードがオートネゴシエーションの場合に限り、本製品の該当ポートがリンクダウンします。
- オートネゴシエーションでリンクしている 1000M 光ポート (SFP ポート) に対して、通信モードを 1000M Full Duplex 固定に変更する設定を行っても、リンクダウンは発生しません。
- イングレスフィルタリング無効時は、受信パケットの VID が受信ポートの所属 VLAN と一致していない場合でも該当パケットは破棄されませんが、ポート認証やポートセキュリティによってスタティックエントリーとして FDB に登録されている MAC アドレスを送信元 MAC アドレスに持つパケットについては、VID が一致していないと転送されずに破棄されます。
- EAP 透過機能有効時に、タグ付きポートから送出される EAP パケットにはタグが付与されます。

---

## 5.6 ポートミラーリング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

タグ付き設定のソースポートでタグ付きパケットを受信すると、タグなしでミラーポートから出力されます。

---

## 5.7 パケットストームプロテクション

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

SET SWITCH LIMITATION コマンドで、受信上限値に 1500 (pps) 以上を指定して、パケットストームプロテクションを有効にすると、受信レートが設定値に達しない場合があります (ブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習のユニキャストパケットで共通)。

---

## 5.8 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

- Leave メッセージを受信したあとも Group Address、VLAN 名は SET IGMP SNOOPING TIMEOUT コマンドで設定した時間まで削除されません。TIMEOUT=0 設定時は Leave メッセージ受信後、約 60 秒で削除されます。
- 存在しないマルチキャストグループ宛での Group-specific Membership Query を受信すると、破棄されずにフラッディングされます。

---

## 5.9 MLD Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」**

IPv6 マルチキャストアドレスと一致した MAC アドレスのパケットを受信すると、マルチキャストグループとして登録してしまうことがあります。

---

## 5.10 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**

- SET PORTAUTH PORT コマンドで MODE パラメーターに MULTI (Multi-Suppliant モード) を指定したポートに対して、さらに SET PORTAUTH PORT コマンドの PIGGYBACK パラメーターに ENABLED を指定して実行することが可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません (Multi-Suppliant モードのポートでは、PIGGYBACK は有効になりません)。
- Multi-Suppliant モードに設定された Authenticator ポートにおいて、Authenticator からの EAP-Request に対して、Suppliant から PAE グループアドレス (01:80:C2:00:00:03) ではなく、本体 MAC アドレス宛てに EAP-Response を送信された場合、正しく認証できません。

---

## 6 未サポートコマンド

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

SET HTTP SERVER PORT

SET SYSTEM LANG

## 7 コマンドリファレンスについて

---

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.6.0 (J613-M0220-03 Rev.F)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0220-03 Rev.F」は、コマンドリファレンスの全ページ(左下)に入っています。

**<http://www.allied-telesis.co.jp/>**